

現在、68頭の黒毛和牛を肥育・出荷している、佐々木忠義さん。41歳の時に、サラリーマンから専業農家に転身して、今年で9年目を迎えます。それまで両親の手伝いなどはしていたものの、畜産の知識・経験は皆無で、一からのスタートでした。

「はじめは牛の世話をしながら、両親や地元農家の方々、JA営農指導員からノウハウを教わる毎日でした。また講習会などにも参加し、インターネットなどで情報を集めながら、少しずつ理解を深めました。ようやくコツがつかめたのは6年目ぐらいで、それから自分なりの手段・方法を試せるよう



になりましたが、まだ自問自答の日々です。」

### 一日の作業の流れ

まず午前5時半から、牛の体調と飲み水の管理・敷きわらなどの掃除・飼料の給餌を行います。また時間をおいて、飼料の過不足などを調整し、再度体調の確認を行います。体調が悪い牛は飼料を与えても食べに來ず、牛舎の奥に隠れてしまうので、その際には獣医に診察してもらいます。その後、他作物の栽培や牛舎の補強・害獣対策などを行います。そして午後4時くらいから再び飼料の給餌を行います。飼料を何回かに分け

て与えることで、翌日の朝まで空腹感が出ないようにしています。それが終わってから2時間ほどかけて、翌日の朝に与える粗飼料の準備をします。そうして一日のすべての作業が終わりますが、雨風の強い日や体調不良の牛がいた場合は、作業は深夜にまで及ぶそうです。

### 肥育のこだわり

佐々木さんが肥育でこだわっているのが、粗飼料（わら・草等）です。飼料はミネラルなど栄養分を考慮して配合し、また年齢や体調によって変更しており、品質等も安定しています。しかしその飼料も、粗飼料が良くないときちんと食べてはくれません。

「ある時業者から良い粗飼料をもらい、牛に与えてみて驚きました。いつもは食いが良くない牛も旺盛になり、体調も上がったのを見て、粗飼料の大切さを実感しました。ただいつも良い粗飼料が手に入るわけではないので、購入した粗飼料をふるいに掛けたり、品質が良くないものを一つずつ取り除く作業を行っています。」と佐々木さん。

### 今後の目標

今取り組んでいるのが、出荷率

の上昇です。これまで年30頭前後だった出荷頭数を、年40頭にまで上げるため、作業効率の改善による肥育期間の短縮を行っています。

「肥育頭数を増やして出荷頭数を上げることも可能ですが、品質の維持という面を考えると、現状の肥育頭数で出荷率を上げることが最善だと考えています。またA4やA5ランクの上物を安定して出荷するためにも、まずはA2やA3ランクを出さない管理を目指しています。」と佐々木さん。一番嬉しいと感じるのは、「何事もなく、一日が終わった時です。」と、柔らかに笑って話してくれました。

